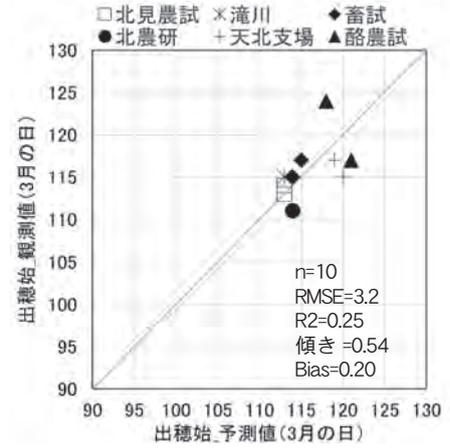


※出穂予測モデル：API 補正日平均気温（API<3の日を1.2倍）と可照時間を変数にする2次元ノンパラメトリックDVR法による。DVIが0.86および1.00に達した日の翌日を、それぞれ出穂始および出穂期とする。



※出穂予測方法：早生品種の予測モデルでDVIが1.014および1.077に達した日の翌日を、それぞれ中生品種の出穂始および出穂期とした。

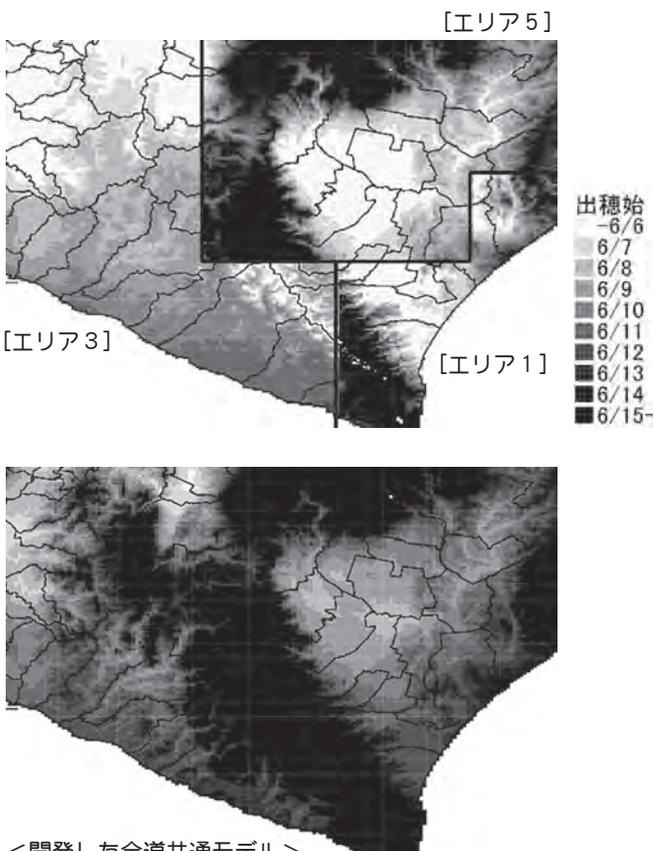


図3 現在のシステムによる予測結果と開発した全道共通モデルによる予測結果
 ※現在のシステムは5つのエリアで予測モデルが異なる。
 ※2019年の気象条件のもと萌芽期を4/20として予測した結果。

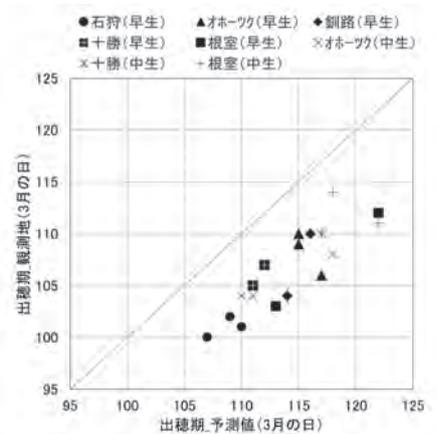


図4 現地圃場における出穂モデルによる予測値と観測値の関係
 ※早生：n=12, RMSE=7.9, R²=0.72, 傾き0.82, Bias7.67,
 予測値と観測値の差 最大11・最小5
 ※中生：n=6, RMSE=7.9, R²=0.69, 傾き0.72, Bias7.50,
 予測値と観測値の差 最大11・最小4

語句説明
 DVI（発育指数）：牧草萌芽期からのDVR（気温や可照時間に対応した発育速度）を積算した値で、本成績では早生TYではDVI値が0.86および1.00に達した日の翌日が出穂始および出穂期となる値。
 API（先行降雨指数）：土壌水分の多少を表現する指数。小さいほど干ばつ状態であることを示す。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。
 道総研酪農試験場 草地研究部 飼料生産技術グループ 牧野 司
 電話 0153-72-2842 FAX 0153-73-5329
 E-mail makino-tsukasa@hro.or.jp